



美里中だより

第 1 号
令和 6 年 4 月 9 日
美里町立美里中学校

学校教育目標

「学び 共感し 鍛え 10 年後の社会を形成する生徒の育成」

【目指す生徒像】☆自ら学びよく考えぬく生徒☆ものごとに共感できる生徒 ☆心身ともに健康で鍛えぬく生徒

【目指す学校像】 一人ひとりが輝き、出番のある学校

HP 更新中



生徒会活動で体感する一般意思

お陰様で入学式・始業式も無事に終了し、令和 6 年度も順調なスタートを切ることができました。日頃より保護者の皆様には、「チーム美里」の一員としてのご協力に感謝いたします。生徒の皆さんが、先輩や先生方、地域の方々とともに、未来に続く美里中学校を創っていくことを期待するとともに、「美中生で良かった」と思える学校づくりに向け、教職員一同尽力する所存です。

さて、学校教育目標を「学び 共感し 鍛え 10 年後の社会を形成する生徒の育成」と変更し、2 年が経過しました。美里中学校の生徒が、複雑で激しく変化する 10 年後の社会を生き抜くために必要な力を身につけ、自分らしく生きられることを目指し取り組んできました。お陰様で、本校の取組が学校内外で評価されるようになってきています。コロナ明けのここ数年で子どもたちが前面に活躍する姿が見られるようになりました。その良さを色濃くしていきたいと考え、今年度から目指す学校像を「一人ひとりが輝き、出番のある学校」とします。自分の出番を積極的に活用し、経験からスキルを身につけさせることです。そのためにはまず、子どもの出番です。次に、教職員の出番です。最後に、保護者・地域の出番です。保護者の皆様にとっては、子どもの様子が気になりつい言いたくなってしまう場面があるかもしれません。子育てのゴールは子どもの自立です。ですから「見守る」は、「子どもが社会的・経済的・精神的に自立できるように成長していく姿から目を離さずに、そこから大きくずれ過ぎないように守っていく」という態度のことです。そこを共通認識しながらともに力を出し合っていきたいと思います。

目指す学校像の達成のために特に力を入れていきたいのが生徒会活動です。生徒会活動は、まさに民主主義の実験場です。いざ校則を見直そうと思っても、新しいルールをつくる際には、生徒の中にも様々な意見があることがわかります。少し意見を言い合って、会議の最後に多数決を採れば結論は出せるのですが、そういう安易な多数決が生徒みんなの総意であるといえるかは大いに疑問があります。18 世紀フランスの思想家ジャン＝ジャック・ルソーは、民主主義社会の前提として、「一般意思」という概念を説きました。一般意思とは、自己利益の最大化を目的とするのではなく、「自分はいいけれど、ほかの人はどうか？これによってあまり不利益を被る人はいないか」ということまでを互いに考慮した上での社会での相違のことをいいます。選挙においてこの考えに従うならば、「社会を構成する各個人が、自分にとって都合いいだけの政策を掲げる政党に票を投じるのではなく、社会全体にとっていいと思われる政策を掲げる政党に票を投じるべき」となります。ルソーは一般意思が機能する社会規模の限度を約 2 万人と推定しました。それ以上の規模になると、「自分はいいけど、ほかの人はどうか？」という想像力が及ばなくなるというのです。日本の人口は今約 1.3 億人ですから、限度をはるかに超えています。その点本校なら、300 人規模ですから、一般意思を経験しやすい環境と言えます。3 年生にとってはいいけれど、1 年生にはどうか？運動部にとってはいいけれど、文科系の部活にはどうか？…などなど、自己利益追求だけではない、本当の民主主義の在り方を学ぶチャンスが、学校にはあります。

